いわき民報

平市田町四八番地電三八一番
編輯兼發行人 兼印刷人 千輝克巳
日刊 但月曜を除く
定價一ヶ月廿円一部七十錢
發行所
いわき民報社

平自治警察の定員決る

廳舍は現平署會議室か武德殿を

總勢實に46名

平自治警察署は縣から定員五十一名を發表されたが當初の指示通り四十六名として豫算を計上その內譯は警視一名、警部一名、警部補二名、巡査部長六名巡査三十五人となつている

本署の建物に就いて縣當局は國家警察署と同居のように考へているらしいが、市當局警察會議室乃至武德殿の拂下げを受け、武德殿の場合は西側道路を變更增築を目論んでいる、修繕費の五萬圓は現在の警察署を區分して使用することに備へたものである

なお公務員法が發布されていないため、市警察職員の任免給與服務などは暫定的に縣警察法第五十條を適用することに市會で決定した

平定例市會

追加豫算一七九萬圓 全部原案通りに可決

一月の定例市會は二十九日午後一時半開會、自治警察の發足に依る年度內の豫算五十六萬八千余圓を初め生活保護費七十八萬三千余圓等追加豫算百七十九萬七千圓計上、全會員異議なく可決、蛭田、水竹兩議員から提案した宜子町へ上水道を架設する請願書は市當局に於て誠意を以て調査の上善處するとの約束に依つて撤回、市會終了後記者團を交へて新年懇親會を開いた

定刻金古議長から議事錄署名人を指名し阿部助役が豫算案及び提出議案を說明、金古議長から提出議案が全部の委員會に關係あり然も自治警察に就いては全員が知識を得ず必要ありと全員をい員とすることに贊成を求め、異議なくい員會に移り馬目議員をい員長に審議したが原案全部を承認、本會議で正式可決した

統計專任も設置

自治警察費豫算五十六萬八千圓

豫算の內容

◎經常部　土木費に於いて眞似井川の災害復舊費十萬圓、教育費に於て第三小學校の學級增加に依る備品費（机、い子）三萬五千圓の增額厚生費生活補護費に於て七十八萬圓增額して困窮者のふ助に萬全を期することになつた、消防費で八千七百余圓增額は消防協會の寄附金で、統計關係で專任職員を置くため九千四百圓增額している

◎臨時部では第一、二中學校の學級增加に伴ふ机、い子など備品費二十八萬七千圓計上、警察費の五十六萬八千余圓は給料十萬三千余圓、諸給費（諸手當旅費等）三十五萬圓、需要費五萬七千圓、搜査費七千圓、修繕費五萬圓となつている

歲入は地方分與税二十萬五千圓、生活保護費に對する國庫六十二萬七千圓、縣費支出九十三萬九千圓（內寄附金二十一萬八千圓 生活保護費七萬八千圓 統計補助九千余圓、眞似井川土木補助六萬五千圓警察費全額九十六萬八千圓補助）等があり眞似井川關係で小川江組合から萬七千圓の指定寄附がある

石炭税創設促進

協議會成る

郡下十一ヶ町村が 來月政府等へ請願

地方自治體の財政は極度に窮迫しており、殊に石炭を採掘されている町村はます〱犧牲が多く、行政費の負擔が增大の一途にあるから、之を救うために石炭稅を創設せよと、今度湯本、好間、內鄕、勿來、赤井、磐崎、川部、田人、山田、上遠野、大野の郡下十一ヶ町村では鈴木好間村長を會長に、比佐湯本、山崎內鄕の兩町長をふく會長に石炭稅創設促進常ばん地方協議會を結成し事務所をゆ本町役場に置いたが、先づ第一步として二十八日蓮沼縣會副議長の案內で出縣、石原知事に協力方を陳情した、なお來月早々には政府並に議會へも請願することゝなつたが成行を非常に注目されている

（平⇔松戸間）

鐵道電化採擇に決る

小澤代議士から平市へ入電

平、松戸間の常ばん線電化問題については平商工會議所が水戸會議所等と協力、沿線各町村とゝもに舊年來猛運動を展開中だが、三十日郡選出民主黨總務小澤寅七郎代議士から市役所宛に、議會明けのい員會にて採擇の上五ヶ年計劃にて逐次實現せしめることに決定した旨の電報があつた、市でも大喜びでこの上は極力實現の短縮促進に猛運動をこの機を逸せず展開することになつた

炭勞深夜手當交涉

炭勞常ばん地方支部の深夜手當問題の第一回交涉會は二十八日礦連事務所に開いたがまとまらず三十日第三回交涉會を開いた

三者で委員會を結成す

小名濱の水素煙害の對策に

小名濱日本水素工場の惡硫酸ガスにより全所は近くの田畑八十町步は[illegible]六月來百四十萬圓の被害をみているので、これが賠償並に今後の豫防對策を練るため、今春箱崎地方事務所長をい員長に樋口小名濱町長荻野工場長を副い員長に、工場官廳、被害者側からい員をあげて對策い員會を結成した

公民講座延期さる

いわき文協では公民教育の一助にと來る一日から三日間、平事務所で每夜六時から新憲法、選地法、勞働基準法　親族法相續法等々についての公民講座

市の共同募金

縣下第三位 完遂

三萬二千圓を既に超過して

市の共同募金は一十八日現在で割當三十三萬圓に對し左の如く三萬三千五百圓の超過という成績で縣第三位

△一般寄附三五七、三〇〇圓△街頭募金六四、六九〇圓△慈善興行三二、〇〇〇圓△慈善切手四、〇〇〇圓△愛のしおり一二、五〇〇圓

いよ〱砂糖配給

一日から市內一齊に

舊正月を控へ遂に待望の舶來赤砂糖二十六トンが明三十一日平食營に入荷するので來月二日から一齊に配給するが、配給數量は一人當り二百七十グラムで米の二百九十七グラムと差引かれる、値段はキロ十六圓三十四錢である

煮え切らない答辯

第一校の告訴問題質問

提出議案全部の審議を終へるや鹽議員から第一小學校の不正問題に就いて發言、鈴木市長のにえきらない答辯があつた

鹽『第一小學校の不正事件は昨年に於ける最も重大な問題であつた、市會は市民の疑惑を一掃し明朗市政を運營するためその處理方法を檢察當局に提訴することに決定した、市會の決議は執行部である市當局が當るべきで市長が告訴人になることが正しいと思うが、眞木議員が告訴人になつているのはどういう資格に依るか

眞木『告訴の場合は直接被害者が行うものであるが、告發は市會議員でなくともだい三者がやれることに成つている、市長からも告訴乃至告發すると思うが證據を煙滅されるおそれもあるので個人の資格で告發した

鹽『それでは執行部である市當局が何故告訴しないのか、市當局の考へ方について說明されたい

鈴木市長『市會が告訴するように決議して調査書類を渡されたが、私が調査機關でなく委員の調査も必ずしも完全とは云い難いから、誰れが被告かハッキリ判らぬ相手の判らぬものを告訴することは出來ない、市當局としては結局有るべき物が無く成つたのだからこれを搜して貰へばよいのである、告發は必ずしも書類に依らなくも口頭でもよいので上席檢事に調査書を渡し調査して貰うように依頼し檢事は大きに承知したから何れ結果が判ると思う損害を要求すべき、相手が判つたら告訴もする、眞木君は自分で調査して惡い人が判つているから告發したのだと思う

擅氏が諒承して質問を打切り三時半閉會した

きのうは

四俵

平署では二十九日常ばん線及びばん越東線の二四〇、二三五、二〇〇の上下三本を急襲したこの戰果は無主物をふくめての總件數三十四件で精米一石七斗（四俵）、雜穀三斗四升、イモ類八貫、葉タバコ一貫であつたが惡質送檢はなかつた

石城こども祭

8日磐女講堂で

こども文化の向上をはかるために來る八日日曜日午前九時から磐女講堂で、こども新聞社主催本社並に教組石城、平兩支部の後援で『石城こども祭が』催される、參加は市郡下小、中學校兒童代表や少年、少女會代表で申込みは三十一日まで、種目は歌、踊、劇等で歌や踊は五分以內、劇は三十分以內で、優秀者には代議士賞、參議院議員賞、知事賞、縣會議員賞、地方事務所長賞、平市長賞、平市青少年補導會賞や本社賞、こども新聞社賞が授けられる、市郡ではじめての催ではあり、額賀誠志氏の指導する[illegible]のお月さん子供會、平隣保館、花柳舞踊會も特別出演することになつているので、非常に期待され人氣をあつている、なお當日午前中は兒童のために催し午後は一般父兄のために開放することになつている

土藏破り捕わる

盜品は郡山で捌く

靜岡縣濱松市生れ住居不定無職吉村京一（二五）は三阪村土藏破り犯人として手配中去る二十六日夜再びよい稼ぎ口を探して三阪村附近を俳かい中を平署員に檢擧、同人は名を夫と假名、昨年二月中旬頃江名町字中之作漁業鈴木新兵衞さん方にやとはれ中、同僚の南喜一郎さんほか三名の不在を狙つてトランクから現金二千五百圓を盜んだほか去月上旬頃飯野村大字北白土農業伊藤淺之助さん方から衣類六點約五千二百圓を更に本月十八日夜一時三阪村大字下三阪字戸澤農業佐藤良助さん方土藏を合鍵樣のものでこじ開け衣類三十二點約二萬九千圓相當を續いて二十一日夜一時半頃同村農業佐藤金彌さん方土藏から衣類點約九千圓相當を盜みいづれも郡山に運んで賣り拂つていたもの

炭車に轢殺

二十九日夜七時半頃磐崎村上湯長谷字居倉支柱夫土田正之助さん（三三）は磐崎礦本坑一六〇〇米本線附近で作業中誤つて炭車に胸部を轢かれ即死

いわき寸言

◎汽車賃や通信料等の値上げ實施、あげるものは早め與えるものはおくらすか

◎青少年補導會も名前だけか、青少年の犯罪增加におされたのカナ

醫藥用、化學用
其他硝子製品一式
新星硝子工業株式會社
平市佃町
電七一四番

衣類一般
卸賣と小賣　【電96】
小資本で販賣をなさる方にも
多少に拘らず御相談に應じます
平市銀座ヨコ紅小路　大崎屋

古本專門の親切な書店
平市新川町
鎌屋文庫

模型ヒコーキ
セットと部品そろいました
少しでも卸し致します
卸　タカサワ　小賣
平市仲田町51

性病科
內科
矢吹醫院
平市鍛田町
電八二六番

祖父幸太郎儀 病氣療養中の處藥石効なく一月二十九日午後八時十分死去いたし候に付生前中の御厚誼を深謝致し此段御通知申上げ候
追て葬送の儀は二月一日午後一時自宅出棺長源寺に埋葬致すべく候
昭和二十三年一月三十日
平市柳町三番地
孫 有賀高明
男 有賀秀夫
親戚總代 松本孝太郎

委託加工致します
豆粉で美味しいパン菓子が出來ます
御利用下さい
日進堂パン店
平市白銀町驛前通

開店
東京より新しい技術者を招き
洋髪とパーマネントを
始めました、どうぞ御利用を願ひます
△電休日でもパーマはかけられます
平南横丁角
平市南町五〇
直龍軒婦人部

福島縣の古俳壇（2）

平　石太郎

二、本縣の諸俳壇

奥羽俳諧の祖は平城主內藤風虎であることは前に述べた通りであるが當時の我が福島縣の俳壇の大勢はというと次の通りになる。

關門白川（當時はからかいたこには何云を始めとして十人棚倉には橋木東柳を始め六人須賀川は最も俳句の盛な所で相樂等躬を始め四十余人、石川には丹內等盛はじめ十余名三城目には伊藤松盤はじめ三人川邊には尉笑はじめ三人淺川には矢吹香衣、大谷には樫和道はじめ二人上新田にはまつめ外一人西長沼には矢部雖云はじめ六人郡山には津瀉嬰粱はじめ六人、八幡日出山守山山中、日和田、高倉、上小泉二本松等にそれぞれ十數人の俳人が居つて當時の俳書にその名をとどめて居る。

藤出には岡部松雨の外數人、桑折には佐藤馬耳というすぐれた俳人が居つた。川俣には稻花軒が居つた大淀三千風が例の日本行脚文集にもその名を配している。

以上は、洗濯物（寛文年間）俳諧一星（貞享年間）日本行脚文集（全）伊達衣（元祿年間）革分船（全）二息上巻（寶永年間）等の俳書に依つた管見にすぎないが、とにかく當時の尤なるものは

磐城俳壇の內藤露沾
須賀川俳壇の相樂等躬
桑折俳壇の佐藤馬耳

の三人をあげることが出來るこの三人が中心となつて地方の俳壇を指導して居つたが、何れも我が平城主內藤露沾の弟子である。如何に當時本縣の俳壇を牛耳つて居つたか考へる丈でも愉快の情禁じ得ないものがある。

相馬、會津には俳人の名は見えないが、大淀三千風が足を入れて若干の俳人と交はつていることは例の日本行脚文集にあらはれている

報奬物資の配給適正化に

あす內郷で說明會を

（平）地方事務所管內の昭和二十二年度產米供出は本月上旬見事完納したがサツマイモの供出は氣候不順に見舞はれた結果、前年度と比してその減產を餘儀なくされ代替供出せねばならない窮境に追込まれた、然しこの間に於ける農民の並々ならぬ勤勞の結晶は遂に實を結び今度これ等の努力に報ゆるためどしどし報奬用物資を縣も放出しており、特に超過供出農家に對しては二十一年度にさかのぼつて此の報奬物資を特配することになつたので地方事務所では之等報奬物資の適正公平な配給するため三十一日內郷町々會議室に報奬物資配給主任會を開き左記の配給物資につき說明することになつた

一、昭和二十二年度產米及甘藷供出報奬用輸入砂糖の特配について　本月十五日迄の完納農家一戶當り白砂糖二斤で適正月中には配給完了する豫定である

一、昭和二十一年度產米超過供出報奬用物資割當について、二十一年度產米百十パーセント以上超過供出農家に對し原則として銘仙、その他各農家の超過供出の質的と睨み合せ地下足袋、銘仙等を適正公平に割當る、郡下の割當は銘仙一千四百十五反　地下足袋二千二十五足　現品は有償で特殊衣料切符を受けた場合は市町村農業會で、地下足袋購入券の配布を受けた際は地區商業協同組合でそれぞれ購入する

一昭和二十二年度產米供田報奬用纖維製品及ゴム製品特配について、本年一月末日迄に米の供出責任數量完了した農家に對し、ゴム購入券、特殊衣料切符を受けた際は指定配給機關で受配する、之れは一俵二點の割で點數を受け左の點數表を參考に受配する　地下足袋十五點、ゴム長靴十五點、ゴム深靴五點、ゴム半長靴五點以上は地區商業協同組合で購入　自轉車タイヤ二十五點、自轉車チューブ二十五點、リヤカータイヤ二十五點　同チューブ二十五點以上は縣自轉車タイヤ商業協同組合員から購入　紺織二十五點　作業衣二十五點　軍手五點以上は市町村農業會から購入

銀幕の喜劇王　杉狂兒公演

一日第三小學校講堂で

東北地方文化協會では勞働組合員連の慰安をかねて、平市風戶興行社文藝部の後援に依つて、銀幕の喜劇王杉狂兒一行を招いて、一日平第三小學校講堂で十時、一時、六時の晝夜三回の實演會を開催する、これがため特に第三校の講堂も演劇に適するよう特殊の施設も行つており杉狂兒一行は三十余名の大一座ではあり、一般ファンの希望に應えて勞働組合員やその家族以外の人を歡迎するとあつて早くも非常な前人氣を示している

食糧公團の發足遲れる

二月中旬になる

食糧營團平出張所では來る一日から全國一齊に切り替へ食糧配給公團として出發する爲の準備として十五日間の前渡し配給を前後二回にわたり實施、萬全を期していたが中央部の人事問題未決定のためにおくれ發足は二月の中旬頃になるだろうとの本部の意向から近く第三度目の十五日間の前渡し主食配給を實施の計劃中である

次回へ持越

小名町有地處分

小名濱町々有財產處分委員會は二十九日午前九時より開催　字寺廻りについて堀越、吉田元町議等の使用者關係人が町の財政內容を知りながら等級の一階級格下げをとなえるので論戰となつたが結局現階級でいくことに決定　漁業會への賣渡坪數三百六千余坪についてはこの兩年の不漁から價格の時價半減說も出たので一應處分を延期しそのかわり他の町有地を處分する事としなお次回に於いてすべてを決することゝした

部分品一式市修理は
橋本モーター商會
平市驛通白銀町

灰皿

市內仲間町鈴木千代松さん（八五）が三十日平署へ、孫に飯をもつて來るようにいつてくれと願い出た、材木町に息子一家が住うが、息子も既に六十五歲なので、いまは孫の代となつている、千代松さんは一人住うが、世話になる關係から配給等一切孫の方にとつて貰つているが、その分け前が少くてどうしても腹が減つて辛抱出來ぬ、そこで增配方を要求したがこの足らぬ世の中梨のつぶて、さりとて斷食鬪爭要求では身が持たぬ末署に救いを求めたもの、署でもこの問題の裁決はなかなか難しいと頭をひねつている、さてもあさましい世の中にはなつたものと署員達もただ吐息ばかり

許可制廢止

精米麥場設置

精米精麥場の新設擴張又は改良に就いての從來食糧管理法の規定に基き許可制度であつたが去年十二月三十日付で食糧配給公團設置に伴い食糧管理法についても一部改正が行われた結果、事業の許可制は廢止されることになり新制度を研究中のため暫定措置として舊冬末日以後の申請は中止、同じく同日まで縣又は地方事務所に到着したものは縣に保留することになつた

正月の思出

（續ソ連邦抑留記）

黒澤隆世

昭和二十一年の正月は北歐「ラーダ」の森の土窟兵舍の中で迎えた抑留仲間もない頃だつた爲、まとまつた抑留生活の團体的訓練も出來ておらず各兵舍ごとに　と云うよりは御馳走なども各個人ごとに作つて正月氣分を味つたものだ、ちようどそれは日本の各家庭が思い思いの御馳走を作り家族一同打揃つて新春を寿ぐといつたような氣分であつた、大晦日の夜、各人はそれぞれ自巳のリュックの中からとつときの白米や携帶みそや粉末醬油などを取出して御馳走の準備を始めた、宿舍長のN氏が「スリーキャッスル」の青罐を出した時には期せずして「ワッ」と歡聲が揚がつた、明くれば元旦。隣兵舍のM宿舍長から「お雜に」のようなものが飯盒に半分位とどけられた、當時の宿舍本部に軍務係として勤務してゐた私はその御馳走のお裾分けを頂いたがプーンと香ふ醬油の汁の中に親指の頭ぐらいのモチ（それは白米を蒸してねつたものだが一ツポンと入つてゐた、汁を一口すつて「モチ」はそのまゝ隣の人事係のA君にまわした、宿舍長の「スリーキャッスル」は三本ヅヽ、各方面に分けられ瞬く間に青い罐は空になつてしまつた、吾々數名の本部員は一本の「スリーキャッスル」を一口か二口づつのみまわしをやつた。お雜には故郷を憶はせ「スリーキャッスル」は滿洲時代を思出させ美味いと云ふよりは寧しろうら淋しい刺戟であつた。間もなく遙拜式が始まることになつた、自稱宗匠のH君が新品の白い靴下をはきながら「どうです」と云つて私に一枚の紙片を渡した「靴下の白きを穿けり　お元日」こんな句が記されてあつた、開戰當初から戰場の眞只中に東奔西走してゐた私には穿きかえる一足の靴下も無かつた、私は着たまゝの身なりを整えて土窟を出た、外は未だほの暗く吹雪がピューピューと吹いてゐた。私たちは東に向つて橫隊に並び遙々「祖國幸あれ」と祈つた、暫し默禱してゐる私の頰に吹雪は呵責なく吹きつけた　私は昭和二十一年の祖國の姿をこの吹雪の中に見るような氣がしていつまでもただ默つて立ちつづけてゐた「遙拜や吹雪の面に正對す」私は土窟に歸つてこんな駄句をH宗匠にお返しした。

昭和二十二年の正月はボルガ河の流域に在る「ユラブカ」收容所で迎えた、この時には吾々の抑留生活も相當いたについて來て集團的訓練も一應出來かゝつてゐた、當時私は給與中隊の一員として五千人の同胞の給與を擔當して居つたので如何にしてこの正月を樂しんで貰ふかと云ふことで一パイであつた「兎にも角にも出來るだけの御馳走を作ること」それが何よりの樂しみであると云ふことに意見が一致したので私たちはソ側から支給された糧秣を可能の限度にヤリクリをして暮の二十日から御馳走の準備にかゝつた、大晦日から元日の朝にかけて私たちは文字通り不眠不休で頑張つた、食堂には松をかぎり、紅白の餅（但し之は木製）もそえた私共が漸く仕事を終えた元日の朝はひど [illegible]

[illegible] ブルには豆の甘にや天 [illegible]

[illegible] のたつた日の休日で [illegible]

[illegible] 氣持は「女房の気持」[illegible]

[illegible]（完）

二三年一月初春記

衣料品
呉服と洋品　有名化粧品と小間物
雜貨　レコードと樂譜樂器と
附屬類　雜誌
平市四丁目　電268番
山吉商店

パーマネント
休日でもパーマネントは出來ます
電
徒弟一名急募
メイ牛山門下
永山ツル子
平市田町六八
メイ美容室

新スタヂオ完成
一般御撮影御用命
寫眞ハ三光舘
撮影可能 [illegible]
平市驛前田町大通り
いわき民報社東隣り三軒目

小名濱小學校卒業生三五會
同級會員に御知らせ
此度同級生
縣會議員大井川正巳氏
小名濱高等女學校長（舊氏改め）松原萬氏
兩氏を御招待致し同級會を催うし一致度萬障御繰合せ御出席願度御知らせ申上ます
期日…舊正月四日午後一時
場所…小名濱町大〆南羽一善氏
三五會長　作山安太郎
小名濱古湊

平市仲田町（電六一五）
內科
小兒科
三井醫院
三井五郎

勞働組合員諸君の慰安に
スクリーンから拔け出た
喜劇王　杉狂兒　實演
一行實に三十余名
勞働大衆慰安のために撮影休暇を利用特に來演
一期日　二月一日　アサ十時　ヒル一時　ヨル六時　晝夜三回
一場所　平第三小學校講堂　舞台裝置完備
一入場料　勞働組合員及その家族　大人二十五円、小人一五円
◇一般の來場も大歡迎
主催　東北地方文化協會
責任提供　風戶興行社文藝部

早く安く親切に
婦人子供服仕立
洋服改造修繕
㊂　洋裁店
平市白銀町　世界館向側